

おし図書館

No.165

発行
代表
青木 和子
松本市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

第二回

松戸市立図書館

分館見学

西山 怜子

2013年5月18日と11月16日の二回
にわたり、松戸市立図書館分館の
ぐりに参加しました。

松戸に住み、約半世紀になりま
すが、分館名の地名の部分を知っ
ていても、松戸のどの辺なのか、
分館もどのようなものなのか、わ
かっていませんでした。

塩崎さんと青木さんが、事前に
分館を回り、下見して下さってい
たので、スムーズに巡回できまし
た。各人が塩崎さんと大石さんの
車に乗り、私は楽しく興味深く、
分館めぐりが出来ました。

松戸市には、19の図書館分館
があります。分館の位置は、松
戸のどの地域に住んでいても、
図書館の利用を可能にするとい
う配慮から出来たものでしょう。
松戸市の分館の多くは、市民
センターとか他の複合施設と一
緒の建物の中にあります。

特に感じたことは、①図書館
が建物の中の目立たない奥の方
にあり、図書館に重きを置いて
ないのではないかと思われまし
た。②図書館分館といても、
スペースが狭いものがあった。
机とか椅子は、本の存在と同時
に必需品ではないでしょうか。
これは本館にも言える事ですが、

③蔵書の中では、児童向けの本が
多かったです。それでも子供の利
用は少ないようです。④明かるい
感じの分館が少なかった。建物の
中の分館の位置とか、もともと窓
が無いとか、本棚でふさがれてい
るとか、節電のためなのか、暗い
イメージです。⑤職員の方は、た
ぶん図書館が好きで、仕事として
図書館を選ばれたのでしょうか。好
感が持てました。

私の図書館利用は本館です。む
しろ矢切分館が近いのですが、分
館が入っている建物（矢切支所）
に行っても、図書館が在ること
とは、比の度初めて知りました。
分館めぐりをして感じた事は、
結局、図書館の意義や目的をしっ
かりとらえ、本館も含めて立派な
図書館をつくり出すことが大切だ
と考えます。時代の変化にも対応
できる構造にしておくことも、
立派な本館のあるところには、

立派な分館が出来るでしょう。



塩崎 俊一

〈個別〉

○総合耐震工事によるリニューアルで、エレベーターが設置されたのはよかった。
 窓際に子ども専用スペースが設けられているが、利用PRは出来ていないのか。

駅に比較的近いとしても、駐車スペースの少なさが最弱点だ。

○和名ヶ谷スポーツセンターの運営意識が先行して、図書館案内も駐車場料金案内も不親切。
 雑誌週刊紙コーナーに「週刊新潮」のみとは；本館の指示で特に意味なしとのこと。5紙位の新聞が休憩スペースの提供に随している。

○古ヶ崎—こいほど案内が不親切で判りにくい所はない。JAの隣、古ヶ崎市民センター裏の駐車場の

らの入口が分館へ直なのに、窓の表示の角度が悪くて、道路からは見えない。

せつかくのガイドやメッサー類の掲示は、一工夫がほしい。
 ○新松戸—駐車場が、支所・市民センター周辺に3ヶ所あり、利便性が高い。
 蔵書の割りには貸出しが活発なようで、市民の活用度が高いと感じた。

書店業でも照度は必要条件と言われるのに、天井の低さと照明の暗さが気になる。

○小金—CD試聴があるのは、本館と小金だけだが、殆どの市民は知らないのではないか。

分類ナンバーと探索ネットの整合性が、今ひとつと感じた。

駐車場満杯の折、道を隔てた無料駐車場(薬局)は助かる。

○小金原—支所入口の照明が暗すぎる。2Fの図書館へ行くのに、

エレベーターの位置が判りにくい。
 小金原住民の中心拠点(商業施設を含む)の割に、利用率が低いように思った。

○馬橋東—この地形が無かったとしても、この三角地に建設する必然性があったのか、疑問に感じた。その敷地内での駐車場の位置が無理筋で、危険いっぱい。近くのJAでの駐車場のトラップが懸念される。

真ん中の階段を含め、スペース採りが不思議なデザインに思える。
 ○明—建物にエレベーター設置なしで2F上がるのは、弱者にとつて辛い。建物ウラに設置可能ではないか。

電車の駅に最短距離の施設の割りに活用度が低いのが課題。

○常盤早—まず市民センター入口の受付付近が薄汚い。担当職員としての意識が低いのではないか。

分館の中では最大の蔵書数と貸

出実績があるが、児童書の蔵書比率が高いのは単純に喜べるのか、疑問に思う。

△総括▽

第一回(5/8) 9館、第二回(11/6)

9館の見学を終えて(八柱のみ未見学)全体の印象の評価は、

①市全体の蔵書約57万冊から分館に配分され、スペースの関係で大型分館の常盤平・小金原・小金

でも各4万冊弱、その他は最低ライン一万余冊はスペース上やむを得ないが、同じ本の配置はシステム上再検討の余地があると思う。

②どの館も児童書が3割前後を占め、貸出し比も3割以上の様だが、新しい図書館のあり方として課題が残る。特に小分館は4割に達する。(和名ヶ谷など)

③蔵書の種類的には、文学・小説の類が多いように思う。従前の図書館が教養と娯楽の聖地であった後遺症が残っている気がする。

④一方、情報の最新化と調査・分析報道の多様化を捕捉するには、分館を選別して、新聞は全国紙・地方紙全紙、週刊紙の全紙常設の考え方を①と連動して検討願えないだろうか。

⑤全市的な見地からは、本館も分館も現状維持で事足りていている。

新しい図書館像を市の中期計画の基本に提示し、市民からも広くパブリック・コメントを求め、それは如何か。(分館数の多さの利便性だけで良いのか)

④近隣の市川市の貸出実績の割程度である事をどう考えるか。

新しい図書館像を市の中期計画の基本に提示し、市民からも広くパブリック・コメントを求め、それは如何か。(分館数の多さの利便性だけで良いのか)

⑤全市的な見地からは、本館も分館も現状維持で事足りていている。

新しい図書館像を市の中期計画の基本に提示し、市民からも広くパブリック・コメントを求め、それは如何か。(分館数の多さの利便性だけで良いのか)

④近隣の市川市の貸出実績の割程度である事をどう考えるか。



神 惇子

どういう視点で見れば良いか判らないので、漠然とした印象を記します。

①どの分館も児童書を中心にしている感じ(新松戸を除く)。松戸には児童館が一館だけなので、いつそのこと児童館として位置づけたら?などと考えました。

②どの館の利用者も(大人も子どもも)常連さんかなと思われました。

○古ヶ崎で、修学旅行事前学習用書籍が二種置いてあったので、職員に「学校と連携して置いてい

のか」と聞いたら、「特にそういうことはなく、本館からの指示による」というような返事で、他館も同じとのこと。但し、他館で同じようなシリーズ本は一つ所しか見当たらなかった。

○選書基準がどうなっているかが気になってきました。分館独自の選書なのか?分館同士で分担調整しているのか?本館で割り振っているのか?

○大人の本の「社会」関係のコーナーを見ると、町の本屋に平積みしてあるような本が多く、質の高

ている感じが(新松戸を除く)。松戸には児童館が一館だけなので、いつそのこと児童館として位置づけたら?などと考えました。

○どの館の利用者も(大人も子どもも)常連さんかなと思われました。

○古ヶ崎で、修学旅行事前学習用書籍が二種置いてあったので、職員に「学校と連携して置いてい

のか」と聞いたら、「特にそういうことはなく、本館からの指示による」というような返事で、他館も同じとのこと。但し、他館で同じようなシリーズ本は一つ所しか見当たらなかった。

○選書基準がどうなっているかが気になってきました。分館独自の選書なのか?分館同士で分担調整しているのか?本館で割り振っているのか?

いもの、リベラルなものに極端に少ないと感じました。

「憲法」がこれだけ話題になっているのに、まともなものは殆ど見当たりにません。(本館にあるのかな?)

職員は、感じが良いと思います。が、専門家としてのプライドを持ってやれているのかな?と疑問に思いました。



「何とかしようよ! 図書館分館」
武空 紀子

「生涯学習会館構想」が破綻し、今のところ新図書館が建ちそうにない松戸市です。

図書館本館は貧弱でも、市内各地域に19もの分館を設置し、市民の要望に添えていると言います。しかし、松戸市は「分館」と称していますが、館長がいないので「分館」とは言えず、多くの「分館」

には正規職員さえいないので、正確には「分室」です。

実態を見たといと、「おーい図書館」で企画した分館巡りの二回目に参加しました。二回目は9分館(稔台・和名ヶ谷・古ヶ崎・新松戸・小金・小金原・馬橋東・明・常盤平)でした。

私が当日参加できたのは、稔台・和名ヶ谷・古ヶ崎の子館だけでしたが、事前の下見の時に同行させて頂いた方も合わせての感想です。

他の自治体、例えば私が見学したことのある浦安市や江東区などでは、松戸市の本館よりも設備が整った分館でした。

比べて松戸市の自称「分館」は、比較的面積が広い和名ヶ谷・小金・小金原・常盤平でも空間的ゆとりが無く、収蔵冊数も少ない。

他の5分館は、どこも本棚が

びっしりで、読書スペースも無く(本館も殆ど無いですが)、隅っこに椅子が何脚か置いてあるのが実情です。

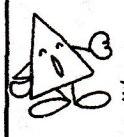
そして、ご一緒した皆さんとも話したのですが、「分館」が何処に在るかが分かりにくい。知ってる人だけが来れば良い。と考えているのでしうか。ウエルカム感が無いのです。

子どもたちが読書をしなないと、よく言われますが、「お母さん、図書館に行こうよ」とか、友達同士で「今日は図書館ネ」と思える「分館」でないと、各地域(歩いて行ける範囲)に19「分館」が設置されている意味がありません。

何を根拠に規模を決めているのかは不明。でも「分館」格差(多様性では片付けられない)は何と

かしたい!と感じました。

他の5分館は、どこも本棚が



第一回目(5/8)の分館巡りの後、目を置かずに第二回目を、と思いましたが、5ヶ月後に漸く実現しました。

前回訪れなかった10館中、工事中の八柱を除く9館を見学しました。その多くが市の中心部に在り、会員が日頃利用している館が殆どでした。

今回訪れた分館のデータは次の通りです。(H24年度版松江市図書館年報より)

分館名	用館年	延べ床面積	蔵書(冊)	視聴覚資料(点)	児童用図書(冊)
① 穂台	74	123	20	0	89
② 和名ヶ谷	96	184	20	589	94
③ 古崎	76	79	16	0	65
④ 新松戸	81	54	29	0	225
⑤ 小金	78	275	36	10	139
⑥ 小金原	76	188	36	0	103
⑦ 馬橋東	83	96	16	0	91
⑧ 明	78	97	22	0	98
⑨ 常盤平	72	178	38	844	236

① 穂台—子どもコーナーを改築。明かるくなり、利用も増えた。

② 和名ヶ谷—明かるく、比較的広々としているが、入口の表示が分かりづらくて、残念。

③ 古崎—市民センター裏の駐車場から入ると、すぐに図書館が在るが、表の入口から入ると分かりづらい。窓がガラスの「図書館」の表示は、物置小屋の陰で見えない。

④ 新松戸—支所なので、駐車場は多い。図書館の利用者は多いのに、狭くて、気の毒に思う。

⑤ 小金—以前のCDコーナーが社会福祉協議会事務所になり、その分、図書館が狭くなった。CDの試聴が出来る。小学生が見学した時の感想文の掲示、ヤングアダルトコーナー、写真集など大型本のコーナー有り。

「蔵書35755冊、9:30~10:30が混む」の掲示は、職員の違いを感じた。

⑥ 小金原—二階に在る図書館は、窓が広く解放感があるが、エレベーターの在りかが分かりづらい。

⑦ 馬橋東—三角形の角地に窮屈に建てているにしては、無用なスペースの在る建物だ。

図書館は暗く、非常に狭く感じる。

⑧ 明—市民センター入口への外階段、それから二階の図書館への階段と、階段を上がるしかない。辞書・辞典のコーナー有り。

⑨ 常盤平—市民センターの建物は古くて暗いが、利用者は多いようだ。子どもの本が半分近くを占める。紙芝居が多数あり、絵本は表紙を見せて配置している。子ども向けに力を入れていると感じた。辞書・辞典が多数揃っている。

前回も感じたことですが、どの館も児童書の割合が多く、全体の半分近くを占めています。それにしても、子どもの利用が少ないよ

うです。
 「図書館の自由宣言」と「松戸市教育施策」は殆どの館に掲示してあり、前回気づかなかつた館でも、どこかに貼り出してあったのではないかと推測しています。
 それ以外の館における職員の方を感じましたが、努力だけではどうにもならない現実がある、と痛感しました。

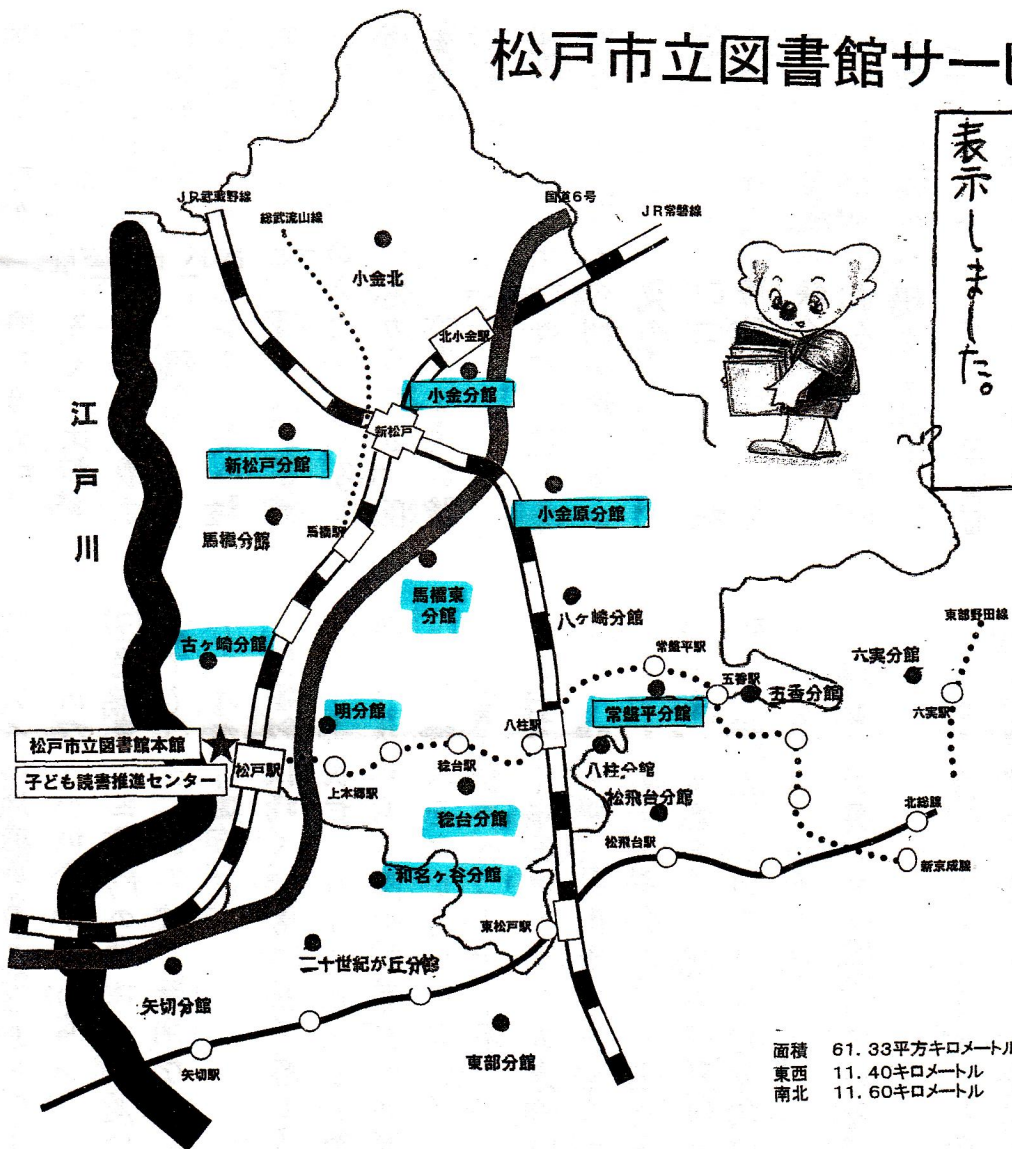
今回は工事中で見学できなかった八柱分館も、近いうちに訪れたいと思います。

いつかは実現するであろう、松戸市の新しい図書館建設に向けて私達も「図書館」についてもっと学ばなければならぬと、気持を新たにしたい見学会でした。



松戸市立図書館サービス網

市内の図書館サービス網は左図の通りです。今回見学した館はで表示しました。



面積 61.33平方キロメートル
 東西 11.40キロメートル
 南北 11.60キロメートル